

令和3年度第1回

男女共同参画プラン推進委員会【要約】

日時：令和3年10月7日（木）午後1時30分～午後3時

場所：恵那市役所 西庁舎3階 災害対策室

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 自己紹介
4. 議事
5. その他・閉会

■委員

	団体名	氏名
1	恵那市地域自治区会長会議	坪井 弥栄子
2	「男女のわ」ネットワーク	亀井 邦子
3	「男女のわ」ネットワーク	伊藤 正明（欠席）
4	まちづくり団体（hugma 編集部）	太田 礼子
5	恵那市教育委員会	西尾 修欣
6	恵那商工会推薦企業	藤下 和也
7	中津川人権擁護委員協議会 恵那市地区部会	市川 雅子
8	恵那市社会福祉協議会	紀岡 伸征
9	恵那市PTA連合会	荒田 聡
10	恵那市国際交流協会	成瀬 あい
11	公募者	井手 志磨

（事務局）

企画課 安藤、和田、紀岡、杉山、

1. 開 会

■進 行：定刻となりましたので、ただ今より、令和3年度第1回恵那市男女共同参画プラン推進委員会を開催させていただきます。本日、進行を務めさせていただきます、恵那市企画課長の和田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。(資料の確認)

なお、本日は、伊藤正明 委員から欠席の連絡を受けておりますのでよろしくお願いいたします。

また、本日の会議は「恵那市付属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。本日のこの委員会の終了時刻は3時ということで予定しておりますのでご協力をお願いします。

2. 会長あいさつ

■進 行：それでは、坪井会長からご挨拶をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

■会 長：お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。コロナの緊急事態宣言は解除されましたが、まだまだ気を緩められない状況です。本日は、昨年度の実績報告と、今年度はすでに半年が過ぎていますが、今年度と来年度に向けた男女共同参画プランの取り組みについて、皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

3. 自己紹介

■進 行：前委員の交代に伴い、恵那市 PTA 連合会選出の 荒田(あらた) 聡(さとし) 様が、本日より委員となりました。委嘱書は机上に配布させていただいております。荒田様、自己紹介をお願いいたします。

(荒田委員 自己紹介)

■進 行：続きまして、皆様からも自己紹介をいただきたいと思っております。坪井会長から順にお願いします。

(各委員、事務局 自己紹介)

■進 行：ありがとうございました。では、これより議事に入りますので、要綱に従い、進行を坪井会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

4.議 事

(1) 昨年度の取り組み及び目標指数の達成状況について【報告事項】

■会 長：昨年度の取り組み及び目標指数の達成状況について事務局からの説明をお願いします。

■事務局：

プランの概要、プランの施策、体制について 資料1、資料2

これまでの取り組みについて

・昨年度は8月31日に第一回の会議を開催。

・昨年度実施した取り組み

①男女共同参画の啓発

・県の啓発パンフレットの配布、

・広報にて、託児事業の啓発、悩み相談窓口の案内、活躍する女性の紹介等。

②会議出席にかかる託児事業

・H29から市の独自の事業として開始。昨年度は11回の利用

③恵那中央出張所の設置

・令和2年4月に開設。女性向けの就労セミナー等を開催しました。

令和2年度の目標達成状況について 資料3

・意識づくり、環境づくり、安心して暮らせる体制づくりの項目ごとに結果報告

■会 長：ある程度割合が上がってくると、それ以上が難しいという状況はある。全体で質問等はありませんか？

■委 員：意識づくりについては、啓発とともに変わってきていることを感じた。

環境づくり3番の防災リーダー養成講座について、私も数年前から受けたいと思っていたが、開催時間が9時から5時半と長時間なので、子供が小さいと受講が難しい。オンラインで受講できないか関係者に聞いたが難しいとのこと。来年度以降に受講できるように調整したい。

■事務局：実施訓練があるので難しい部分があると思うが、オンラインに出来るところがないか担当課へ確認する。

■会 長：子育て中の方も参加しやすい形になると良い。皆がとれるようになると良い

■委 員：資料説明の際、学校教育の場についての項目は、学校と関りがないと「わからない」という回答になってしまうとあった。最近は、男女共同の関係でいうと、学

校の名簿は男女混ぜた名簿となっている。教育でも男女共同参画という考え方の一つの取り組みをしている。啓発と啓蒙は大切だと感じている。この立場になるとわかるが、学校に関わらない家庭には、名簿の話などわからないと思う。そういう方にも、こういった男女共同参画の取り組みの状況を知ってもらうことが大切ではないか。

- 委員：私の会社はトイレだけ男女がわかれている、他は給料も男女一緒、昇給も一緒条件は同じにしている。保育園も運営しているが、平均年齢は30をきっていて若い人が多い会社。

例えば、子どもに熱がでた時、お母さんが犠牲になって時間休をとるイメージがあったと思うが、今の若い人は、比較的そういったことが少ない。夫婦でどちらが迎えに行くか協議して対応している。子供のころから、教育されているので、男だから女だからということにとらわれなくなってきたと思う。

また、見た目では、男か女かわからないこともある。そういうことから、男女の意識に関係なく暮らしているのかと思う。若い子に限ってではあるが。

- 委員：人権の関係で中学生の人権作文を募集している。去年はコロナでなかったが、今年は実施した。今年作品には、LGBTの作文があった。いままでなかったかと思うが、今回は何篇もあった。自分自身の悩みや、意識を持つ大切さなど、今年度の作文に多かった。世の中の考え方の変化があるのでは。こうやって出していけることはいいことだと思う。

- 委員：自分の生活からいうと男女平等じゃないと思う。子どもが重度障がい児で全介助が必要。小学校までは子どもと自分がセットだった。地元の学校で私が付き添わなければならなかった。

医療的ケア児の家族の会に入っているが、皆さんお母さんが子供をみている。保育園に預かってもらえず働けない。やはりお母さんの負担が大きい。私にとって苦悩であった。家族が働いていると結局母に負担がくる。特別支援学校を見ても大体お母さんが送迎している。もっとサポート体制を恵那市でつくってもらえるといい。プランの中には「女性が働けるように」という言葉が入っているが、そういったサポート体制が、この計画の中に漏れているのではないかと思う。

- 会長：誰もが安心して働けるようにする点について、障がい児や医療的ケアの必要な子供のお母さんも働けるようにということが、プランから漏れているところがある。次のプランのところに盛り込んでいくと良い。

- 委員：市民意識調査が毎年されているようだが、我が家に届いたことがない。世代によって、若い人ではLGBTや男女平等の意識があると思うが、80代だと男は台

所に入らず、意識が違うと思う、どういった人が答えているのか、また、世帯主が答えているのかなど教えてほしい。

■事務局：毎年、無作為抽出で 2500 名ほどへ個人あてに送っている。年代も 10 代から 70 代までばらばらで届くようになっている。統計的に処理してデータを出している。例年 8 月ごろに実施している。

■委員：中学の PTA をやっているが、昔と思うと男女の差がなくなっている気がする。子供たち自身が自然とそうになっており、男女が対等にかかわっている。私たちが子供のころとは変わってきている。ただ、小学生のうちから、「男性が仕事、女性は家庭というような考えをなくしていく」ということについては、道徳の授業などで勉強していく必要はあると思う。

■会長：道徳の副本などで男女共同参画の意識づくりのものがあるといいですね。

■委員：意識づくりの中で、職場での優遇差等がなくなってきているとはわかる。啓発の結果かと思うが、昨年度はコロナ禍で、影響があるのかなと気になるところ。

福祉関係の職場は女性が多い環境である。協議会の職員も 85 パーセントほどが女性。その中で、管理職は半々くらい。しかし理事となると構成では男性が多い。昨年、女性が 1 名入り、今年は 2 名になった。幅広い意見を取り入れるためには、女性の役員を増やしていく必要があると考えている、

■会長：審議会の委員でも、男性が多いとなっています。団体の役職で依頼すると男性が多くなってしまいます。団体全体から選んでもらうと女性も出やすくなるのではないかな。

■委員：男女の輪ネットワークをしてきたが、このコロナの影響でまったく活動ができず、外との関りがなかった。皆様からの話を聞いて、この状況を打破して、来年は活動をしたいと思った。

■会長：皆さんに意見を出していただいた。

私は特定の政党と関係しているわけではないが、意識づくりのところで、政治の場におけるというのがあるが、自民党の総裁選に野田さんと高市さんが出た、女性が名前を出したことが、これからの一つの突破口になるのではないかと感じた。また、今日の中日新聞で労働組合の連合の会長に芳野友子さんが初の女性会長となった。ガラスの天井をやぶる人が出てきた。大きな組織の中で、女性も、「私なんて」ではなく、「私がやります」という方が増えてくると、世の中が変わってくるのではないかな。

その他のご意見はよろしいか。では、2 番目の議題へ移ります。

(2) 今年度のプラン推進に向けた取り組みについて【協議事項】

- 会 長：今年度のプラン推進に向けた取り組みについて事務局からの説明をお願いします。
ます。
- 事務局：追加資料にて説明
(えなえーるでの事業報告・女性活躍に関するもの)
 - ・アンケートの実施や父子、子供むけの料理講座、就労セミナーの報告
 - ・審議会等の委員の託児数状況
 - ・チラシの紹介、(女性に対する暴力をなくす運動(国)、生理用品の配布(県))
- 会 長：これから、えなえーるを使ってできる取り組みなどありましたら、ご提案をお願いします。社協でおこなっている「なんでも相談」の状況はどうか
- 委 員：まだ、相談数は少ないが、今後もPRしていく。
- 会 長：年間決まった取り組みはないか。
- 事務局：今のところはない。コロナ禍で女性が弱者になりやすい傾向がある。なんでも相談のような、女性が立ち寄って相談ができる場所に使えないか検討中。
- 会 長：先日の子ども子育て会議にて、委員から「子供が通っていれば相談できる場があるが、未就園の子がいる場合は集まって話す場がない。どこかで子供についての話ができる場所がないか。5～6人でも良い」という提案があった。それをうけて、例えば、えなえーるで募集してやってはどうかと提案。親が集まる時に、支援課からなど、相談を受けてもらえる人を派遣してもらってできないか。女性活躍で、こども園に行く前の子を持つお母さんの支援をできるとよいのでは。
また、順に今年度と来年度に向けてでもいいので、ご意見はないか。
- 委 員：生理の貧困について、県がやっているのは大学生など二十歳前後の女性に焦点をあてているのではないかと思うが、県内にも小中学校の女性トイレに置いていると聞いた。ナプキンが買えない人はもちろん、急に生理になったり、忘れた子も使えるのでいいのではないか。設置について、どこに提案をしたらよいか。お金もかかることなのですぐには無理かと思うが。
- 事務局：県は生理の貧困関係は男女共同参画担当がやっている。県の調査時点では小中学校への設置の回答は無いようだったが、県は9月補正で高校のトイレに設置する予算をつけた様子。高校のトイレへの設置の対応の流れや、他市の情報を確認する。教育委員会へも相談していくと良いと考えます。
- 会 長：高校からでは遅いから小学校から置いたほうがいいのでは。西尾委員からも教育委員会へ働きかけてもらって、色んな方面から伝えていくと良いと思う。

■委員：市でパパママ学級というのがあったと思うが、親になる若い方、親も一歳になるので、その機会に、井戸端会議のような形で、子育てを切り口に、男女共同の取り組みがあると良いのでは。

■委員：堅苦しくないものでできると良い。

■委員：社会に対しての取り組みはよくわからないところがある。企業内のことであれば、社長の意識が変わればどんどん変わっていくので、社長が昭和の考えの方であっても、きちんと伝えていくことは必要だと思う。

社会全体の相対的なことだと迷う部分はある。男女の格差がなく完全に平等になってしまえば大丈夫だと思うが、そうなるまでの過程で、結婚する比率がどんどん下がっていくのではないかと思う。結婚したいけど仕事を辞めたくないで悩む人がいる。多様性を考えて、その人がどう生きたいかを考えて、自分で決めるしかない。旦那さんと家庭を大事にするのか等の考え方。男性でも結婚の比率が低くなっている。結婚しても主たる収入が奥さんであった場合、自立できることにより離婚率が高くなるなどがある。どういう社会になっていくといいのか。わからない部分がある。完全に平等になってしまえば、家庭がうまくいくようになり、大丈夫だと思うが、そこまでの過程をかんがえると、結婚しないという選択につながる。少子化となる。今は男性も育休をとるが、期間が短い。女性の方が長い。社会が変わるとどうなっていくのかわからない。

■会長：理想は、子どもを産んで育てるのも仕事なので、給料は出なくても、子育て期間も仕事をしているとみなして、昇給などもしたらいいのでは。なかなかできないとは思いますが、理想はそのような社会になると女性も働き続けられる。

■委員：子どもを産んで育てることは大変なので、二の足を踏んでしまう。家庭の問題もあると思うが、社会がどうなるかは非常に難しいと思う。

■委員：生理のことでいうと、高等学校は、養護教諭が常にいるので困ったときは保健室に行けば対応してもらえる。小中学校はどう助けていくか難しいところがある。コロナ禍で、外へ出かけていくことがなかった。久々に土岐市まで行ったときに世界が広がった気がした。子育て中の人はそのような機会もなく内へ内へとなっている。外に出ると、知らなかったことが知れる、人と話せる等、ひろがりができる。話せる場を整えることは大事なと思う。

■委員：プランの10ページに恵那市の人口のことがある。今だと48000人くらいだと思う。人口減少が加速していて深刻だと感じている。飯地町は人口が少ないので、少子化対策等もしている。男女共同参画と切っても切れないと思う。

人口を増やしたいというなら、子育てをしやすい環境を作ってもらわないといけない。子供を預ける場所など、生活不安にならないように。人口減少についてどうするか真剣に市も考えていかななくてはいけないと思う。子育てに力を入れてほしい。母が住みたくなる恵那市にしてほしい。

■委員：岐阜市出身で明智町に嫁にきて15年経つ。長男が12歳、次男が10歳。長男を産んだ時、保健センターで「なんでも相談」というものがあった。体重を測ったり保健師に相談が出来、同じ年頃の子を持つお母さんたちが話せる場所だった。えなえーるでできればよいと思う。栄養士だったり、発達相談だったりができる。もうひとつ、明智で婚活のとりくみをしている。ことぶき相談所もあると思うが、婚活のセミナーやイベントもやってみるのもいいかと思う。

■委員：不登校など学校に行けない子も増えてきた気がする。えなえーるでカウンセラーの人が講師となって同じ悩みを持つ親が集まって話す機会があるといいと思う。5人くらいでちょうどよい。同じ子供を持つ人だと共有できて、いろいろな思いも共感してもらうなど、気づきがあると子供への接し方も変われるのでは。

■会長：大事なことだと思う。あおばやにじいろパレットなどの団体があると思うが、その場にいかず集まれるといい。あつまりがあるといい。

■委員：同じ悩みとかおなじ境遇がある人が集まって話す、特定の機関じゃないえなえーるを小規模にできるといい

■委員：園に上がる前の親子を対象とした会もあるが、コロナ禍だと児童センターも閉めてしまう。ズームでもできるように考えている。今後、コロナが落ち着けば、児童センターも再開できそうだが、そういう場は多いほうがいい。児童発達センターの職員が相談なども受けられる。

■委員：色んな話をする場が大切。小さな場が現実出来るようになるといいなと思う。えなえーるを活用して、小さいことから、現実にできるように、市役所の方も願いたい。

■会長：みなさんにご意見をいただきました。半年に一度といわず、集まるのは大事。これから、小さなグループが色々な場所にあるといい。

えなえーるに市役所の人が出張してくれるとよい。恵那市が母親が安心して子育てができる場になるとよい。そうするうちに子どもが成長して母親も仕事ができる。障害児の問題は重い問題だが、そういった人にどう手を差し伸べるか、健常児も障害児も一緒になって成長していけることは、みんなが安心できることにつながる。

■委員：えなえーるに集まることもいいと思うが、恵南の方面からだと難しいところ

もある。地域の情報を集めて、サークルのようなものがあるとして、行政にやってほしいというのではなくて、やりたいことを決めて、市へ相談する。小さなコミュニティが各地にないと解決しない。行政まかせではなく地域の人頑張るってそういう雰囲気ができるよ。

- 会 長：えなえーるが出張してはどうか。各地でそういう場があるとよい。この中から一つでも多く取り扱ってもらいたい。ほかはよろしいか。議題はこれで終わります。事務局へお返しします。

5. その他

- 進 行：長時間にわたり、熱心な議論ありがとうございました。続きまして、次第5番その他について事務局からご説明させていただきます。
- 事務局：皆様、多様なご意見ご提案ありがとうございました。企画課でできることは前向きに対応させていただき、子育て支援や社会福祉、学校教育等に様々な分野のご意見もいただいたので、担当課へつなぎ検討していきたいと思っております。

今後の定例的な委員会については会長と相談させていただき、必要に応じて開催したいと考えております。よろしいでしょうか。では、案件がありました折にはよろしくをお願いします。

6. 閉 会

- 進 行：それでは、閉会にあたり、副会長亀井委員より閉会のご挨拶をお願いします。
- 副会長：一年ぶり以上にお集まりいただき、様々な立場からお話をいただいた。ありがとうございました。皆様お気を付けてお帰りください。